



校長室だより 足立区立第九中学校

第91号 平成30年2月14日発行 長塚琢磨



【合唱コンクール 心のパワーで大成功へ！】

1月26日（金）に第2学年、2月10日（土）に第1学年の合唱コンクールがありました。多くの保護者や地域の皆様に応援いただきましたことを心から感謝申し上げます。

生徒たちは、ずいぶん前から練習し、よいことばかりではなく、ときにはクラスでもめることもあったようです。それを自分たちの力で乗り越え、団結して立派に発表する姿に、私は感動と勇気をもらいました。練習で蓄積されたエネルギーが、ステージで一つになって心のパワーが爆発したように感じました。一生懸命に取り組む姿が何より素晴らしいと感じるとともに、生徒の無限の可能性を感じました。



【人の役に立てる喜び！—人命救助：新聞報道でも高い評価—】

1月14日（日）に、本校第3学年の小島恭将くんが荒川の河川敷で実施したマラソン大会で倒れた人を助け、東京消防庁から救命した功労者として感謝状をいただきました。小島くんは、200メートルの距離を全力疾走してAEDを搬送しました。救命後に「役に立ててよかった」と語った姿を複数の新聞で取り上げられました。

人は様々な人に助けられていますし、人の役に立っています。職業に就くということは、社会を良くし人の役に立つということです。私はこれまで、地域清掃、小学生への学習支援、マラソン大会の給水、さらに雪の日の雪かきなど、人の役に立つ多くの素敵な活動をみています。このように立派な誇りをもてる行動を広げていきたいですね。

【2月に贈る詩】

1年を締めくくる時期になりました。生徒一人一人が自分の素敵さを十分理解して、豊かで活力ある生活を自らつくる新しい年度を迎えてほしいと願っています。

私と小鳥と鈴と

金子みすゞ

私が両手を広げても、

お空はちつとも飛べないが、

飛べる小鳥は私のやうに

地面を早く走れない。

私が体をゆすつても、

きれいな音は出ないけど、

あの鳴る鈴は私のやうに、

たくさんのお唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがって、みんないい。

【卒業・進級まであと約1ヶ月！】

いよいよ卒業式や終了式まであと約1ヶ月になりました。月日が経つのはとても早いものですね。振り返ると、元気でさわやかな朝の挨拶、みんなで団結して燃えた運動会、自分たちで計画し素敵な思い出をつかった修学旅行、日頃の学習成果等の発表や練習を繰り返して感動を創り上げた文化祭、青春の汗と涙を流した部活動などとても充実していたと思います。



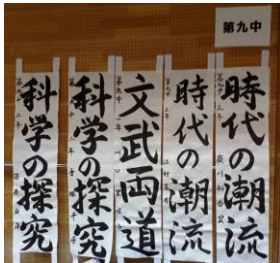
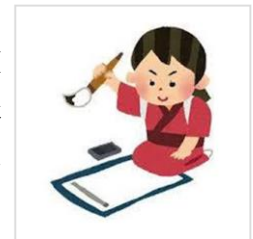
朝の登校の様子

私は、昨日の全校終礼で生徒たちに、あと約1ヶ月で卒業や進級すること、それまでにさらに自分を高めること、そして自分がどれくらい変わったか（成長できたか）確認し、胸を張って卒業・進級してほしいという思いを話しました。

人は素敵に変わることができます。目標を確認し、少しずつでも変えていく意欲と勇氣、そして行動ができるよう、ご家庭でも励ましてくださいますようお願いいたします。

【全学年で席書会！ -日本の伝統・文化に触れる。-】

1月初旬に全ての学年が席書会を開催し、生徒たちは邦楽のBGMに包まれながら、落ち着いて書道に取り組みました。生徒たちが一字一字集中して書いている姿を見て、日本の伝統・文化に触れることで心豊かに成長するのだと感じました。



校内審査を経て、学校代表として、第1学年の川口さん、第2学年の篠原さん・手塚さん、第3学年の江村さん・廣川さんの5人が連合席書会に参加しました。頑張ってくれた成果として、5人全員が銀賞や銅賞に輝きました。

オリンピック・パラリンピック 2020年東京大会で、日本の伝統・文化の素敵さを世界中の人たちに知ってもらいたいと思いました。

コラム：講演「子どもは大人を見て育つ」

夢に向かって自分を変えろ！（山本 博氏が語る）

2月9日（金）午後6時30分から、Lソフィアにおいて、九中ブロック開かれた学校づくり協議会講演会が開催され、2004年のアテネオリンピックで銀メダルに輝いた山本 博さんが、子どもの育成について自らの体験をまじえて熱く語ってくれました。

夢をもち、それに向かって自分を変えられる人になってほしい。昨日できなかったことができるようになる。はじめからオリンピックは無理でも、途中のチェックポイントを決め、確認していくこと、自発的にやるのが重要である。

出合いを大切にすること、自分を変えられる環境が大切なこと、を考えて子どもを成長させてほしい。オリンピック・パラリンピック 2020 東京大会に向け、世界の平和や日本の平和を考えられる子どもを育ててほしい。

